

2008 年度／工学研究科自己点検・評価報告書

2008 年度カリキュラム改定の考え方と具体的制度について

(1) カリキュラム改定の考え方

工学部が 2003 年度に情報システム工学、生命情報工学、環境共生工学の 3 学科体制になり、2006 年度末の卒業生の輩出に伴い、工学研究科では、2007 年度に環境工学専攻を新設し、これまでの情報システム学専攻、生物工学専攻をそれぞれ情報システム工学専攻、生命情報工学専攻と名称変更し、3 専攻体制となった。したがって、2008 年度での基本的なカリキュラムの改定はない。

細かい点では、外国文献講読の重要性を考え、情報システム工学専攻での「外国文献講読」が選択から必修になったことだけである。教育効果の向上のため、環境共生工学専攻では、履修単位数を 30 単位から 34 単位に増やした。

(2) 教育制度

定期的に教員と大学院生が懇談する場を設けて、大学院における学生の意見・要望などを聴くことを継続的に行っていきたい。大学院における授業アンケートについては、各専攻においてその趣旨を明確にし、適切に対応することを検討している。

国際交流については、インドネシアスラバヤ工科大学との交流プロジェクトに続き、韓国国立釜慶大学との学術協定を締結し、今後さらに教員と共に学生の交流を進める。さらに、米国大学との交流も計画中である。

(3) 各課程の具体的な教育方針

・博士前期課程

情報システム工学専攻では、4 分野の専門科目と共通分野選択科目があり、これらの中から自分の研究のために主となる分野から専門科目と共通分野選択科目を 8 科目 16 単位以上履修することになっている。また、修士論文を作成するために、情報システム特別演習と特別研究（必修 14 単位）が用意されており、修了するためには、合計 30 単位を必要としている。

環境共生工学専攻では、4 分野の専門科目があり、これらの 4 分野の中から自分の研究のために主となる 1 分野から 2 科目 4 単位を、他の 3 分野から各 1 科目 6 単位を履修する。その他に共通分野選択科目から 5 科目 10 単位、計 20 単位以上を履修することになっている。また、修士論文を作成するために、特別演習と実験（必修 14 単位）が用意されており、修了するためには、合計 34 単位を必要としている。

生命情報工学専攻では、4 分野の専門科目があり、これらの 4 分野の中から自分の研究のために主となる 1 分野から 3 科目 6 単位を、他の 3 分野から 1 科目 2 単位を履修する。その他に共通分野選択科目から 4 科目 8 単位、計 16 単位以上を履修することになっている。また、修士論文を作成するために、特別演習と実験（必修 14 単位）が用

意されており、修了するためには、合計 30 単位を必要としている。

博士前期課程入学当初のガイダンスで当研究科における学位取得過程の指導を行う。その後、1 年目は英語論文読解の強化と専門的基盤能力の強化を図り、各自に研究課題と背景の把握を徹底する。それをもとに、各自の研究計画作成能力を強化する指導を、指導教員の指導のもとに、特別演習を通して行う。それらと併行して、各自の研究を開始する。2 年目では、各自の研究の遂行とともに、課題解決力の育成を図る。

研究計画および研究内容について、情報システム工学専攻では、1 年目の最後に研究企画書として提出し、研究企画書発表会を行い、2 年目の 5 月に研究計画書を提出する。また、生命情報工学専攻では、2 年目の 5 月に研究計画書を専攻に提出し、7 月にそれまでの研究成果の中間発表会を行う。環境共生工学専攻では、1 年目の 2 月に研究計画書を専攻に提出し、研究計画発表会を行う。さらに 7 月に中間発表会要旨を専攻に提出し、中間発表会を行う。各専攻における発表会では、専攻の全教員からの批評やアドバイス、学生との討論をもとに、必要であれば研究の手法等の修正・検討を行う。また、国内外の学会に参加しこれまでの研究成果を発表する。学生は、研究内容の充実を図り、修士論文として完成させる。

・博士後期課程

後期課程の研究指導科目は情報システム工学専攻では、3 分野、生命情報工学専攻と環境工学専攻では、2 分野に用意されている。各学生は自分の指導教授の特論科目を初年度と 2 年目の間に 4 単位履修する。また博士論文を作成するための研究指導となる特別研究の科目は、初年度から 3 年目までの間に 18 単位履修する。

博士後期課程入学当初のガイダンスで当研究科における学位取得課程の指導を行い、指導教員の指導の下に、専門分野をより深く研究し、博士論文にまとめる。国内外の学会で論文発表を行い、論文誌に積極的に投稿し、外部の批判に耐えうる研究成果とする。